

基礎情報内容	ECEQ 実施園情報
法人名	学校法人いずみ学園
理事長名	井上照裕
園名	いずみ幼稚園
園長名	井上照裕
担当者名	役職名 教頭 氏名 草間妙子
住所	〒943-0841 新潟県上越市南本町3-9-13
電話番号	025-524-1177
FAX 番号	025-525-9620
メールアドレス	izumi-yo@joetsu.ne.jp
園児数	154 人
学級数と人数	年長組 3学級 53名／年中組 2学級 38 名／年少組 3学級 49 名 満3歳組 2学級 14名／2歳児 名／1歳児 名／0歳児 名
保育者数	21人
職員数	7人

研修履歴	STEP1 令和元年 6 月 6 日
	STEP2 令和元年 6 月 6 日
	STEP3 令和元年 10 月 31日
	STEP4 令和元年 11 月 7 日
	STEP5 令和元年 11 月 14 日

STEP を通して

1. STEP 1 や STEP 2 で抽出された自覚的な良さや課題

理事長、園長先生の生活の母体である寺院の境内を園庭として使用し園舎と一体感を持つ作りは仏教保育を身近に感じられる環境にあり「私たちはみんな仏の子」という仏教精神である命の大切さと人として生きていくための社会性を身につけてほしいという願いが体験、体感できる環境にある。

また教育目標の大きなスローガン「きょうもたのしいようちえん」～子どもの「やりたい」をみつけ「できた」を共に喜び合う保育、豊かな感性と考える力を育む～のもと、子ども達が友達と切磋琢磨しながら遊びを通し道徳性、協同性、表現力が子ども達の中に芽生え大きく育つよう、気持ちに寄り添う保育を園全体で取り組んでいる。

特に自然との関わりに力を入れており砂場を3ヶ所に設置し、各教室からすぐに園庭に出られる開放的な環境は遊びの継続が保障されている。

職員構成としては、中堅職員がおらず、教頭や主幹教諭が中心となり、ベテランの職員と5, 6年以下の職員との連携がスムーズにいくよう研鑽し同僚性を高めている。そのため教育目標が職員に理解され根付いている。しかし行事との兼ね合いで遊び込む時間が少ない、遊び込める環境構成のマンネリ化など子ども達の遊びの充実や継続、発展に乏しいという課題がみえてきた。そこで教師間で子ども達の姿を見て継続的な遊び、明日もやってみたいという活動が展開できるよう共通理解しながら進めることで保育の質の向上に繋げ学び合いたいという事になった。

2. STEP4の分科会における外部から見た良さや課題

(公開保育当日にECEQ実施園が示した「問い」に対する参加者の意見を集約)

- ・色々なクラスを自由に行き来しての異年齢交流ややりたい遊びをみつけ遊んでいる姿は正に「今日も楽しい幼稚園を」実践している。
- ・職員が伸び伸びと遊んでほしいという願いをもって活動を構成している。
- ・自分の思いを伝えられる子には耳を傾け、言えない子の声を代弁(言葉がけが自然で活動の邪魔にならない関わり方で)したり、表情を読み取りより活動が展開、発展するよう関わる姿が見られた。それにはやりたいことに夢中で取り組める環境や素材の提供の仕方にも大事になる。
- ・これまでの素材と違う大きさのものを出した時には遊びが振り出しに戻るが素材の特徴に気づき、様々な展開に結びつくことがある。遊びに飽きたときに新しいモノを提供する事で継続に繋がる。教材の有効性を捉え提供することが大事である。
- ・ごっこ遊びをすることで感性が鋭くなる。遊びのルールは子ども達が決める。(例)ボーリングの玉を投げる位置を年齢により変えてあげている。買い手、売り手など自分のやりやいことをやりながらお友達の思いを汲み取り自然と役割分担が決まっていく。

廃材を入れる“なんでもBOX”を保育室に設置しておくことで子ども達のやりたい気持ちを保育者も理解し様々な素材の提供に結びつき活動の広がりや継続に繋がる事やごっこ遊び等の所の配置など明日から生かせる意見も頂き職員のやる気に繋がった。また子ども達と職員の間、待つ、受入れる、導くという信頼関係が構築されているという意見も多くいただいた。

しかし短期的なねらいとしての「子ども達の楽しむ姿」は見られたが、体験と活動の学びのプロセスで長期的なねらいを明確にすることが望まれる。

4. STEP5において整理された良さや課題並びに課題解決の方策

(「問い」に対する参加者からのフィードバックを整理し、今後どのように考えていくか等、話し合われた内容を記載)

公開保育後、いずみ幼稚園では公開保育当日に参加者から寄せられた様々な意見をクラス担任がSTEP2と照らし合わせながら整理する事から始めた。

それを主体(自分と学年又は全体としての活動として取り組む)軸と時間(すぐに取り組むのか、時間をかけて取り組むのか)軸で付箋を再整理した結果

STEP5では

- 1、自分が取り組めばよい事柄
- 2、全体で取り組まなければいけない事柄
- 3、すぐにできる事柄
- 4、じっくり取り組む事柄 という事象で付箋を整理する事で課題が具体的にみえてきた。

年長—他クラスの子が加わり製作などが中断したり、遊びの方向が変わってしまったりした時は・・・

結果 降園時に子ども同士が活動(遊び)の振り返りをして、明日への思いや注意点など話し合い、それを発表し合う場が必要。(肯定的に意見を出し合う)。教師は子どもとの信頼関係の中で、子ども達の姿を受け止め見守り活動を子ども達になるべく任せる。家庭との連携の中で子どもの成長(アイデアをいただき)を共感する。

年中—参加した先生方からは子ども達の対話が沢山聞かれ、友達同士の関わりが多くみられたと具体的な場面、ご意見、感想を沢山頂いた。

結果 「やりたい」という気持ちを受け止めて「対話」について考える。子どものやりたいことに気づき、その思いを大切にしながら、対話(子ども同士、対先生、対自分)により子どもの意見や考えを引き出し、子どもの中でイメージが広がり発想力、想像力が芽生えて、主体的活動ができる環境を整える。

年少—他クラスとの交流について。保育のねらい、活動の状況、安全性などについての質問が多かった。

結果 どこで遊んできたか。「何が楽しかったか」等話を聞いている。見かけた先生には声をかけてもらう。一人ひとり違う成長をしている年少児は、特に自己主張が大きくトラブルが多いので、毎日の情報交換は欠かせない。自己主張を大切に受け入れながら、自立、共感、思いやりの心に繋がられるようにする。自然物を遊びに取り入れることで、色々な発見をして制作の意欲や友達との関わりも増えてきた。

5. まとめ(担当コーディネーターとしての感想も含)

今回のいずみ幼稚園の取り組みの目標には、子どもの「やりたい」をみつけ「できた」を共に喜び合う保育が掲げられています。幼児が自分の思いを言葉で伝えると共に、教師や他の幼児などの話に興味をもって注意して聞くことを通して次第に「子どもと子ども同士についての視点」や「環境」についての視点に焦点を当てている。これら教育要綱(10の姿)の基底をなす理念を、課題の把握から組織として具体的に意識化、共有化するために取り組んできた園内研修の取り組み手法やプロセスそのものが質の高いものになっていると言える。

実際、公開保育をすることにより改めて、一人ひとりの子どもを受け止め、丁寧に対応している保育の姿勢や子ども同士が関わり合い、育ち合っている様子を確認する良い契機となっていた。特に異年齢交流においては組織的に取り組み、日常での思いやり、親密性、尊敬、気遣い、自己調整など等、これから求められる「社会的情動スキル」については子ども達の姿から色々な場面で見られた。今後さらに、多角的な視点から考えていくことの必要性や個々の子どもを捉える保育者の子ども理解のあり方や、そのための記録のあり方をより良いものへと改善していきたい課題も明確になっている。

こうした問題意識から園内研修において、これまでに増して同僚から学びあう取り組みを組織的に行い、それが個々の教員に還元されるという良い循環の中で、新たな記録の仕方の工夫、保育実践の成果が期待できる。

今後園内研修においていずみ幼稚園の目指す保育を保護者、地域にも発信し、協力を呼びかけ、園児・保育者・保護者が信頼し合い、より質の高い幼児教育がなされ「きょうもたのしいようちえん」の存続に向けて努力されていくことが期待させる。